

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101494		
法人名	社会福祉法人 見松会		
事業所名	グループホーム 華の苑		
所在地	長崎市中里町1188-1		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和2年2月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 'すべては入居者のために' をスローガンのもと、主体は入居者であることを念頭に置き、サービスの提供を行います。 2. 自然豊かな地域の中で、民家を活用した家庭的な雰囲気、入居者様・ご家族様が安心して生活できるようサービスを提供します。 3. 家庭的な環境の中で、日常生活における援助を行い、認知症の進行を緩やかに、また精神的に安定し、個々の尊厳が保たれ、健康的で自分らしい生活が送れるよう、入居者自身でできることは行ってもらうなど、自立を促す支援を行います。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の移行に伴って変更した理念の理解と具現化に向けて、職員全員で考えた「事業目標」を柱として日々の支援に取り組んでいる。24時間シートを作成し利用者一人ひとりに生活全般の「好き嫌い表」と生活歴の聞き取りを行い、安心して楽しく暮らしてほしいという思いで、利用者の個別ケアの実践に意欲的に取り組んでいる。また、地域との付き合いを大切に、自治会全班に事業所広報紙を回覧板で回し活動の様子を知らせ事業所への理解に繋げている。毎年、地域行事や保育園の運動会へ招待があり、住民と交流を深め事業所への認知度・信頼度を高めている。母体法人医療機関との連携による車両の確保で系列施設の行事への参加など外出の機会が増え、利用者が喜んでいる。管理者と職員の信頼関係の構築があり、職員と利用者の家族のような優しい繋がりがあ事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外壁掲示板に事業所便りを掲示するだけでなく、自治会に協力してもらい、各家庭にも回覧し、地域の皆様に苑の様子を知っていただけるようにしている。	法人理念を支援に置き換えた、職員で考えた目標を基に具現化に取り組んでいる。法人は年頭に、理念の職員研修を実施し、また、新人職員にはオリエンテーションで説明し理解と共有を図っている。職員は日々の支援や会議の中で、理念に立ち戻り話し合い、具現化に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の行事などに参加し、地域住民と交流する機会を作り、顔なじみの関係を築いている。	自治会に加入し、全班に事業所の広報誌を回覧板で回し、事業所の様子を発信している。ボランティアが訪れ、隔月開催の折り紙教室は定着し喜ばれている。また、地域の夏祭りや敬老会へ招待があり利用者と参加したり、保育園の運動会で利用者が競技に参加するなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方が見学に来た際は、利用者が苑でどのような生活をしているのか、支援方法を含め情報の提供をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事やヒヤリハット・事故報告、研修報告などを通して会議参加者からの意見を頂き、より良いサービスが提供できるようにしている。	年6回、規定の運営委員の参加で開催している。運営推進会議には、職員も多数参加し各種報告を行っている。また、複数の利用者の参加がある。質問や自治会の行事予定など活発な意見交換や交流の様子が議事録から窺える。ヒヤリハット報告に対する提案など運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修にできる限り参加し、新しい知識を得て、より良いサービスが提供できるようにしている。	事業所の運営上分からないことや手続き等に、管理者が地域センターや市役所に赴いている年1回。担当課職員が訪れる他、年2回介護相談員を受け入れ、支援に役立っている。また、行政が主催する研修等にも参加するなど連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や法人内研修に参加し、身体拘束をしない環境作りを行っている。	事業所は、身体拘束等適正化委員会を設け、身体拘束の内部、外部研修を実施し、職員への周知と共有を図っている。また、「ご利用者に優しいケアを行うための気付き」に取り組み、グレーゾーンについても理解を深めている。日中の玄関の施錠はなく、外に出る利用者には付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	不適切なケアがなされていないか、日頃のサービス内容をお互いに確認し、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利擁護について学べる機会をもてるよう努めている。日常生活自立支援事業など利用者に利用の必要性が生じた場合は、活用できるよう関係者と連携していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に同意を得ている。利用者本人、ご家族が疑問に思う点については丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会を設置し、玄関に掲示している。契約書にも記載し、連絡が取れるようにしている。面会時などご家族に接する際はご家族から要望を聞き、運営に反映をしている。	相談・苦情の窓口や苦情解決の方法は明文化し、契約時に家族へ説明している。家族の面会時には利用者の状況を伝え、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。遠方の家族へは家族の希望でSNSで知らせている。また、毎月「家族通信」を送付し、事業所の取組みと利用者の様子を伝え、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議で、苑でのサービス内容について意見交換をしている。利用者、ご家族への対応だけでなく、日常業務全般についても話合っている。	職員は毎月のケア会議や事業所内委員会、業務の中で意見要望を出している。また、年1回の法人施設長との個人面談では、プライベートや仕事上の悩みや提案、要望を伝えている。管理者は気になる職員への声掛けや勤務希望など働きやすい職場環境づくりに努めている。洗濯機の増設など職員要望の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面接を定期的に行い、スタッフの体調を把握している。介護職員処遇改善加算の申請を行い支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の法人内研修に参加し、自己研鑽に努めている。外部研修にも積極的に参加できる環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームのイベント等に参加し、他事業所のスタッフと交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ご本人の要望を聞いたり、要望を伝えることが困難な利用者に対しては、ご本人が何を望んでいるのかを考え、また家族からも情報を得て、サービス提供に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	より良いサービスを提供するためには、家族との関係も重要であるため、ご家族が何を望んでいるのかを聞くように心がけ、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主訴に十分耳を傾け、そのニーズが何であるかを話してもらい、的確に把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にサービスを提供するだけではなく、これまで自宅でされてきた食事作りなど、利用者の趣味に合わせ、一人ひとりの「その人らしさ」を引き出し、生活していただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を伝え、また毎月、日頃の様子を写真つきの紙面で伝えるよう郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院受診やかかりつけ医の往診の際は、馴染みのスタッフからの声掛けを頂くなどしている。	職員は利用者や家族から生活歴や暮らし方の聞き取りを行い、記録し把握・共有している。面会には家族や友人、職場の同僚などが訪れている。家族と墓参りや葬儀へ参列する利用者の他、子どもの結婚式に参加する利用者もいる。職員は自宅近くのドライブや家族や友人に電話を掛けるなど、馴染みの継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけリビングで過ごしてもらい、一緒にカラオケや体操などの活動を通して、お互い励まし合いながら、楽しんでいる様子が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にご家族に連絡し、退去後の様子を伺うなど、契約終了で関係性を終わらせるのではなく、契約終了後も関係性を大切にしよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの「その人らしさ」を引き出す、個別ケアが提供できるよう努めている。	職員は利用者1対1の時間を意識的に持ち、思いや意向を汲み取っている。表出困難な利用者は表情やジェスチャーで読み取り、職員間で判断している。また、新たに利用者や家族から、嗜好や音楽、趣味、家事などの好き嫌いを聞き取り、「好き嫌い表」にて職員で共有し、利用者との会話や「24時間シート」やケアプランへ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や好き嫌いを本人・家族などから聞き出し、ご本人が希望されるサービスに少しでも近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のケア会議などで、利用者一人ひとりの日常についてアセスメントし、情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を取り入れ、スタッフから日常の生活での気づき等を引き出し、一人ひとりに合ったケアプランを作成している。	毎月、アセスメント、ケアカンファレンス、モニタリングを行い、面会時や電話で聞き取った家族の要望や利用者の「好き嫌い表」、24時間シートの気づき、医師の意見を取り入れケアマネージャーが原案を作成している。職員参加の担当者会議で原案を検討し、現状に合ったケアプランを作成している。ただし、連動する介護記録は記載が少い。	24時間シートには支援や利用者の気づきが多く記載されている。ケアプラン作成に必要な正確な情報を得るために介護記録の充実を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートに記入し、情報の共有をしている。利用者一人ひとりに支援する中心となる担当者を定め、ケアの充実を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を取り入れ、その人らしい「個別ケア」が提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、一緒に散歩に出かけるなどして、地域の方と会えば会話などしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診に加え、かかりつけ医への通院支援も実施している。	かかりつけ医の継続は利用者や家族の意向に沿って決め、かかりつけ医への受診は、家族が同行し事業所へ結果を伝えている。突発的な他科受診は、家族に確認をとり、職員が同行している。2週間毎の協力医の往診や歯科医の往診もある。受診の結果は、毎月家族に送付している。職員は夜間急変時の対応を理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化があった場合は、電話にて報告し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	速やかに情報提供を行っている。定期的に面会に伺い、治療の状況等の情報を頂き、退院後の対応に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する方針を定め、ご家族・主治医・看護師を交え方針を共有している。	事業所は、看取りに取り組みないとした対応を明文化し、契約時に家族へ説明し同意の署名を得ている。重度化や看取りで事業所での生活が困難になった利用者については、病院や他施設への紹介など相談にのっている。また、法人が行う看取りの研修に参加し、老化・老衰等についての知識を習得している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフで緊急時の対応を周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練時には、消防署スタッフにも参加してもらい、職員の災害に対する意識付けをしている。また火災等の災害時には地域住民の協力が必要となるため、地域住民の方にも参加のお声かけをしている。	昼間想定消防署立会いの火災避難訓練を年1回実施している他、夜間想定を2回、夕方2名体制での自主避難訓練を行っている。訓練時の地域住民の参加はないが口頭にて協力の約束を得ている。備蓄も整備している。ただし、自然災害の事業所独自のマニュアル作成や避難訓練の実施、非常持ち出し品の整備はこれからである。	事業所独自の自然災害対策マニュアルの作成と避難訓練の実施に期待したい。また、災害避難時の住民への具体的な協力依頼や、非常持ち出し品の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応面での問題がないか、お互いがチェックし合い、利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保に努めている。	職員は利用者を苗字にさん付けで呼び、排泄や入浴介助時は羞恥心に配慮した支援や尊厳を傷つけないように心掛けている。個人情報の取り扱いには契約時に家族へ説明し、同意の署名を得ている。保管場所も適切である。職員は守秘義務の誓約書を提出し、理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ご自身で洋服をきめてもらったりするなど、日常生活の場面において、自己決定できるようなかかわりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設に合わせたリズムで生活してもらうのではなく、一人ひとりの生活のリズムを尊重し、自分のペースで生活できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、一緒に洋服を選びおしゃれを楽しんでいただくなど、身だしなみの支援をしている。また、定期的に理容師に訪問してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや、食べたい物を理解し、献立作成に活かしている。下ごしらえや後片付けにも参加してもらっている。	献立は専任の職員が利用者の希望を取り入れ作成し、嗜好や嚥下能力、アレルギーに対応し、調理している。利用者は下ごしらえなど出来る部分を手伝っている。パン食やにぎり寿司、正月は豪華おせちを取り寄せるなど、利用者の要望は積極的に取り入れている。利用者とするおやつなど楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量を記録し、体調管理に努めている。水分摂取量が少ない利用者には、こまめな水分摂取を促す声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・誘導・介助など、利用者にあった口腔ケアの対応をしている。協力歯科医による往診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、尿意のない利用者には時間をみてトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援あいている。	職員は24時間シートで利用者の排泄リズムを把握している。その日のリズムの変調は職員間で共有し、日中はトイレでの座位排泄を基本として、声掛けや誘導を行っている。夜間使用のポータブルトイレは使用の都度洗浄し、気持ちよく排泄できるように心掛けている。また、利用者の排泄状況に合った支援を検討し、改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、果物など通じが良くなる物を摂ってもらっている。主治医の指示のもと、便秘薬等も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、入浴日以外でも希望があれば対応している。失禁時などは清潔を保てるよう、シャワー浴ができるようにしている。	入浴は週4日準備し、利用者は週2回を基本としている。各利用者の入浴日は決めているが、状態や気分に合わせて臨機応変に対応している。車椅子の利用者は状態によってはシャワー浴支援を行っている。同性介助に対応するなど楽しむ支援に努めている。入浴回数増を計画し取り組んだが、職員の体制が整わず未実施である。	職員体制も整った現在、入浴回数増の取り組みの実施を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度、臭気には十分気をつけ、安心して過ごせる環境づくりを心がけている。就寝時間も特に取り決めもなく利用者の生活リズムに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を介護記録にファイリングするなど、利用者が何を服用しているか把握できるようにしている。服薬マニュアルを作成し、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の下ごしらえ、洗濯物たたみなど簡単な家事の手伝いをしてもらうことで、利用者一人ひとりの力を活かした役割を担ってもらっている。好きな音楽をレクリエーションで使うなど、楽しい雰囲気作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事での外出以外に、散歩や買い物に同行してもらうなど、日常生活で外出する機会を作っている。	祭りやくんちなど地域の行事や法人病院の行事、花見など車椅子の利用者も一緒に出掛けている。散歩や外気浴は日常的であり、その日の気分のドライブや買い物外出、誕生日にカフェへ行くなど個別の外出も職員同行で対応している。家族と外出する利用者もいる。職員は積極的に外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	バザーに参加した際は、店員とのやりとりを利用者自身にしてもらい、スタッフは傍で見守るような関わりをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の少ないご家族に対して、電話をかけ話していただく機会を作ったり、メールに写真を添付して送信したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂の温度、湿度、臭気、明るさなど十分注意し、快適に過ごせる空間作りに努めて「いる。また季節感を味わってもらう取り組みをしている。	リビングは明るく、大きな窓からは景色や鳥の声など、季節を楽しむことができる。キッチンからの家庭的な心地よい家事音や香りが五感を刺激し、利用者が思い思いの椅子やソファで寛いでいる様子が窺える。空調管理や清掃は職員が毎日行い、清潔で居心地よい共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり、利用者同士で交流するスペースを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の写真、好みの置物などを自由に持ち込んでもらい、居心地の良い居室にしている。	居室への持ち込みは自由で、使い慣れた筆筒や馴染みの物を持ち込んでいる。家族の写真や鉢植えの植物、制作した作品などでそれぞれが落ち着ける居室を作っている。仏壇を祭っている居室もある。空調管理や清掃は職員が毎日行い、清潔で住みやすい空間となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、階段、トイレ等に手すりを設置している。リビングからトイレまでご自身で行けるよう廊下にテープを張るなど配慮している。		